

P.20 ◆質問 19番(三宅和広君)

◆19番(三宅和広君)

(略)

続いて、県内の学校司書等の配置についてお伺いいたします。

国立青少年教育振興機構の行った調査、分析によると、子供のころに読書活動が多い成人ほど、社会性、自己肯定感、意欲・関心、文化的作法・教養、市民性などにおいて意識・能力が高いとされています。また、全国学力・学習状況調査とその後の保護者への調査とをあわせて行った国の分析では、家庭の社会的背景が必ずしも恵まれていないにもかかわらず学力の高い子供の6つの特徴のうちの一つが、読書や読み聞かせの習慣があることでありました。読書は学力や能力の向上につながるだけでなく、心の平穏や共感性、創造性など、人として重要な要素を育てるためにも必要であります。岡山県においても、おもしろ読書事典の作成や活用事例集の取りまとめ、読書手帳の作成などさまざまな取り組みが行われています。しかし、その反面、学校における読書の拠点である学校図書館における司書の配置は、正規職員を配置している場合もあれば他の業務との兼務のところもあり、市町村の規模によってばらつきがあるのが現状です。読書を推進するのであれば、その拠点となる学校図書館において、可能な限り常勤の司書が子供に本のおもしろさを伝えると同時に、専門職として学校における読書活動の中心的役割を果たしてもらうことが必要と考えますが、今後の司書の専任・常勤化に向けた取り組みについて教育長にお伺いいたします。

(後略)

P.28 ◎答弁 教育長(竹井千庫君)

◎教育長(竹井千庫君)

(略)

最後に、学校司書の配置についてであります。公立小中学校の約9割に合計505人が配置されておりますが、その約7割が非常勤となっております。お話の司書の専任、常勤化に向けた取り組みとしては、学校図書館法の改正により、今年度から配置が努力義務となったことも踏まえ、国に対し全国都道府県教育長協議会等を通じて、専任、常勤化を含め定数措置を求めておりますが、市町村教委に対しても学校司書の適切な配置が行われるよう、引き続き働きかけてまいりたいと存じます。

以上でございます。